

『資本経済への知的資本』

LIBRARY ICHIKO 147 SUMMER 2020 7月31日 発売予定

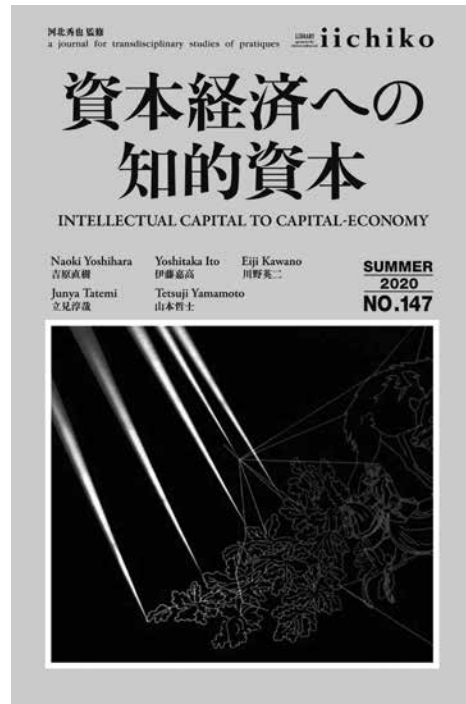
COVID-19のパンデミック以降の世界をどう考えればいいのか？ 環境、場所、民俗、精神を文化学的に検証してきた本誌は、今一歩、現実へ踏み出していくつかの指標を問題提起しながら、これからの日本／世界づくりをなす上での本質指針と歴史規定的条件をクリアにし、物事をなす上でのスタッフ（素材）を提示していこうと考える。〈資本経済〉を、資本主義の概念的な曖昧さ、ソーシャリズムの実際の限界に代わってプロブレマティクする。商品経済も労働経済も産業経済も、さらには環境経済も、その地盤には〈資本〉が作用しているのに見失われている。〈資本〉は資金や資産ではない、個々における力能である。文化資本、象徴資本、社会資本、さらに場所資本、技術資本、言語資本、環境資本、自然資本など多様な資本が働いており、経済資本だけが経済を動かしているのではない。政治資本も統治資本、国家資本を場所資本から見直すべき地平に今やある。それは最低限のものをより多くではなく、固有の至高のものを指す。ブルデュー社会学を超えるボルタンスキーやラトゥールやアアリー、さらにドングズロラの理論開示は、現実把握の既存知識に対する知的資本を有しており、そこをもう一歩進んで深めていくことだ。

「商品経済」「賃労働経済」（他律的社会経済）から、〈資本経済〉、個々人の自律力能を領有した〈資本者 capitalian〉の自己技術へとシフトする上で、〈日本の文化資本／文化技術〉の本質を文化的に開削していくことが要される。それは西欧の普遍性に代わりうる普遍性を有しているが、日本文化が情緒資本として感取されている状態を〈知的資本〉へと言説生産していかねばならない。またマネジメントは、ドラッカーが言うようにたまたま経済企業において活用・探究されただけで、総体的に開発適用されていくべきものだ。商品経済マネジメントが社会マネジメントに拡張されてきた、その限界を超えていく〈資本経済マネジメント／場所マネジメント〉であるが、「知識に対する知」の働かせ方である〈知的資本 intellectual capital〉の新たな構築なくしては不可能である。ワーク／技術に知識を応用する知識資本 knowledge capitalのままでは、もはや現実に対応できず、自分の命を自分で守れない。マネジメントは自分の自分に対する自己技術である。他律技術優位への依存によって安全を保つ時代は終わったのだ。

パンデミックは世界中を不安と恐怖に陥れたが、医療行為と別ものの医療化が「社会」世界を一般化することによって、場所での出来事を抽象化してしまう社会統治技術そのものの不備性を露呈した。「商品経済」の社会市場を前提にした知識では対応できない現実が出現していることへの認識不足である。かかる現状に対して、新たな概念空間と自己技術へと知的資本が、近代エピステモロジーを突き抜けて進みいく回路と思考格子を、本誌はさらに明証に探究しつづけていきたい。

▼山本哲士「新たな〈資本経済〉と場所：知的資本としての概念経済」▼吉原直樹「移動論的転回：その境界—アアリーを読む」▼伊藤嘉高「アアリーは老いたるモグラを助けるか—アクターネットワーク理論で〈資本〉を発見する」▼川野英一「現代資本主義と都市空間の再編—L・ボルタンスキーにおける「社会的なもの」と「空間的のもの」」▼立見淳哉「資本主義、連帯経済、そして「田園回帰」—「資本主義の新たな精神」を縦糸として」▼カラー特集「いけばなの今」

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇二〇年十月末発行予定



A5変形 128頁 定価(本体1,500円+税)

【監修・アートディレクター】
河北秀也(かわきた ひでや)
1947年生まれ。日本ペリエールアートセンター主宰。著書に『デザイン原論』など。
本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】
山本哲士(やまもと てつじ)
1948年生まれ。
政治社会学、ホスピタリティ環境学。
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』、『フーコー国家論』ほか多数。

ご注文は「RCC」→ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.03-5730-6084

資本経済への知的資本

LIBRARY ICHIKO 147 SUMMER 2020 1500円(税別)

ISBN 978-4-910131-02-3 C1010 ¥1500E

書店名

部数